

第 61 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告

—Counting Education Courses に参加して—

協和キリン株式会社 安全性研究所 坂口 泰子



今回、本学会の SOT 教育コース (Continuing Education Courses : CE コース) への派遣制度を活用させていただき、第 61 回 SOT 学術年会と CE コースを聴講いたしました。今年の SOT 学術年会は、COVID-19 感染拡大状況を鑑みて、現地サンディエゴとオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。私にとって初めての SOT 学術年会はオンラインでの参加となりましたが、現地での開放的かつ闊達な学会の様子をフォトライブラリーから伺い知ることができ、“次こそは現地参加のチャンスが来ますように”と静かに願った次第です (写真はいずれも SOT から許可を得て掲載)。

私が参加した CE コースは、医薬品の初期安全性評価について体系立てて紹介された「Safety Evaluation Strategies in Drug Discovery: From Target Assessment to Identification of Drug Candidates」

と、毒性学的応用に向けた最先端のマイクロバイーム研究方法について紹介された「Leading-Edge Microbiome Methods for Toxicological Applications」の 2 コースであり、このうち後半のコースの内容を基に、今年の生涯教育講習会にて紹介させていただきました (オンデマンド配信)。

前半のコースでは、医薬品開発後期に毒性が顕在化することで開発中止に追い込まれてしまうといった製薬業界共通の課題に対し、研究開発初期の段階で取りうる安全性評価 (標的や化学構造に基づいた安全性評価、PK/PD、早期の in vivo 毒性評価など) について、一連の方法を改めて学ぶ事が出来ました。また、後半のコースでは、特に医薬品の非臨床安全性評価ではあまり着目されていないマイクロバイームですが、毒性研究においてマイクロバイームを考慮する必要性や、その解析手法、in vitro/in vivo 評価系、そしてトランスレーショナルリサーチに関して事例を交えてご紹介いただきました。今後我々の研究にどのように落とし込んでいくべきかが課題ですが、今回マイクロバイームの基礎から応用までを学び、生涯教育講習会に向けて調査しまとめられたことは、自分にとって大きな財産となりました。

最後に、このような非常に貴重な機会を与えてくださった本学会教育委員会の皆様、事務局の皆様、そして SOT 参加や生涯教育講習会での講義資料作成にあたりご支援いただきました関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。

